

史實調査參考資料報告

摘要

所屬部隊
(固有名稱)

独混第九旅団
砲兵隊

職官
中隊附
陸軍中尉

終戦時ノモノヲ
記ス

全右所在地

沖繩県宮古島

氏名

[Redacted Name]

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略
歴

昭和十六年三月一日入隊(北隊才三部隊)七月日幹部隊
補給十七年三月七日見習士官(八月七日野砲兵第
五七聯隊第四中隊附(滿洲)山神起十一月一日陸軍
少尉十九年四月十三日第六中隊附八月十五日
混北旅団砲兵隊第三中隊附九月十三日伊良部島到着
二月七日宮古島移駐同島防衛

職ノ變更及主ナ
ル参加戦闘名ヲ
記ス

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝
備ノ概要

砲兵隊(直轄九四九七式)本部一中隊三銃列一
箇中隊六内駄馬編成

以前部隊
野砲兵才三聯隊三大隊(大隊八野砲一中十榴三中
隊砲親馬編成)

最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシテ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ併記ス

所屬部隊作戦經
過ノ概要

昭和十九年九月十四日宮古支隊(伊良部島)上陸
同島防衛(昭和二十年六月七日天号作戦ニ参加
宮古島移駐同島防衛八月十五日終戦
以前部隊野砲兵才三聯隊
昭和二十年九月三日滿洲口(遼河)山神附
近ニ駐ル防衛勤務に従事

戦闘終了
後ノ概況

昭和二十年八月十日
十二月三日宮古島赴任
五日沖繩到着

歸還輸送ノ状況
ヲモ併記ス

歸郷(又ハ連絡)
先

[Redacted]

其ノ他ノ参考事
項

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

29

29

M

關東上陸地支局

昭和 年 月 日

史實調査參考資料報告

摘要

秋混第九旅團
砲兵隊

中隊附
陸軍中尉

終戦時ノモノ
記ス

全右所在地

沖繩県宮古島

職官
氏名

[Redacted Name]

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略
歴

昭和十六年三月八日入隊北隊才部隊(七月日神部候
補生十七年三月二十七日見習士官七月七日野砲兵第
五七聯隊第四中隊附(滿洲山神越)十一月一日任陸軍
少尉十九年四月十三日第六中隊附八月十五日
混北旅団砲兵隊第三中隊附九月十三日伊良部島到着
二十一年七月宮古島移駐同島防衛

職ノ變更及主ナ
ル參加戦闘名ヲ
記ス

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝
備ノ概要

砲兵隊(直連九四九七式)本部一中隊三銃列一
二箇中隊六内駄馬編成

以前部隊
野砲兵才部隊三ヶ大隊(五大隊八野砲一中十榴三中
聯隊親馬編成)

最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシ向ソノ

所屬部隊作戦經
過ノ概要

昭和十九年九月十四日宮古支廳伊良部島上陸
同島防衛昭和二十年六月七日天号作戦ニ參加
宮古島移駐同島防衛八月十九日終戦
以前部隊野砲兵才部隊
昭和十六年九月三日滿洲口黑河省山神村附
近ニ於テ防衛勤務ニ從事

以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

終戦(又ハ主力
ノ戦闘終了)
後ノ概況

昭和二十年八月一日普修戦
十一月三日宮古島去來
五日沖繩到着

歸還輸送ノ状況
ヲモ併記ス

歸郷(又ハ連絡)
先

[Redacted]

其ノ他ノ參考事
項

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

29

29 m

36

36

陸軍上陸地支局

昭和 年 月 日

支隊調査参考資料報告

摘

所属部隊	独逸予支隊砲兵隊	職	小隊長	級	中尉
所在地	沖繩群島古座島古島	氏名	[Redacted]		

支那事変以降に於て
自己了断

昭和十九年八月十五日歸成 編成 福州司令部

支那事変
概要

昭和十九年八月三日 伊良部島上陸
昭和二十一年六月七日 宮古島に移駐 日島附近に準備

支那事変
概要

戦後引続々宮古島に在り昭和十九年十月五日米艦
が小島に於て沖繩本島屋敷嶺方面に侵入
昭和二十一年三月一日沖繩砲台が小島に於て破壊
三月六日入港

支那事変
概要



支那事変
概要
時役一部宛記載あり 二復員省史兵部二送付ス

職に支那事変
に於て
戦死
不

支那事変
概要
支那事変
支那事変

支那事変
概要

戰史資料

獨立混成第五十九旅團地長隊

東京・丸山館

一、部隊名及部隊履歴ノ概要 部隊長名

1. 碧第一二九四六部隊

2. 昭和十九年八月十五日滿洲國公主嶺ニ於テ編成、同年同月十七日公主嶺出發、同年八月—九月間ニ朝鮮釜山港出發、同年九月—十一月間ニ南西諸島宮古郡伊良部島ニ上陸、昭和二十年六月初旬迄蘭島守備勤務、同年六月初旬ヨリ宮古島守備勤務中終戦ニ至ル

3. 陸軍大尉 遠藤修藏

二、指揮隸屬關係及其ノ變遷ノ概要

公主嶺出發以來混成第五十九旅團長ノ指揮下ニ在リテ終始ス、参加セル主要ナル作戰(戰斗)ノ概要死傷損耗

1. 天号作戰ニ於テ宮古島及伊良部島守備ヲ嚴ニセリ
2. 下士官一、兵三名右作戰間ニ於テ米機ノ襲撃ニ依リ

戦死ス

四、給養 衛生

1. 給與定量ハ當初玄米六呂瓦ナリシモ昭和二十年二月頃ヨリ食糧補給不可能トナリ給與量漸減シ終戦當時ニ於テハ三ロロ以下トナル、然ルニ戰斗準備ハ益々強加スル為兵員ノ勞働力ハ愈々加重トナリ栄養失調患者其ノ他体力衰弱者多数發生スルニ至レリ

而シテ食糧現地獲捕ノ為部隊現地自活ヲ以テ主食及副食ノ補給ニ努カセシモ極微カナルモノニシテ給養ノ回復困難ナリキ
2. 前記給養狀況ニ伴ヒ衛生狀況ハ不良ニシテ一般ニ体力衰弱シ並ニマラリア罹患者續出スルニ至レリ

五、終戦ヨリ歸還マデノ行動概要

終戦後直ニ兵隊奉還ヲ實施シ專ラ現地自活作業ニ専ラシメ、又宮古島飛行場ヲ主トシ附近ノ復舊整理作業ニ従事セリ

特記事項ナシ

東京・小津納